

学校法人 純心女子学園 創立80周年

純心女子学園は2015年に創立80周年を迎えました。
その歩みを振り返り、純心に託された教育と研究の使命に
熱意をもって取り組みます。

私たちは2015年、学園創立80周年を迎えました。奇しくも日本の教会「信徒発見150周年」、長崎の町の「被爆70年」の年と重なりました。「奇しくも」というのは、純心の80年の歴史はこの二つの出来事との深い関わりの中に築かれ、しかも創立から原爆被災までの10年間と被爆後の70年間を画するものになってい

創立80周年に寄せて
学園の歩みの奇しきを感じる

学校法人純心女子学園
理事長
片岡 千鶴子



ステンドグラス「創立史」(ヤマワリオホール)
中央：学園創立者早坂久之助司教と
初代学園長江角ヤス

るからです。創立からの10年間を第一の創業の時代、被爆から今日までの70年間を第二の創業の時代と大別して、80年の歩みを振り返ってみます。

Ⅰ. 第一の創業の時代と「信徒発見150周年」

純心は「信徒発見のサンタ・マリアのご像」の前で誕生した教育女子修道会「純心聖母会」を設立母体として創立されました。「信徒発見」とは、1865年3月17日、大浦天主堂を訪れた浦上村の農婦がプチジャン神父に「ワタシノムネ、アナタノムネトオナジ」「サンタ・マリアノゴ像ハドコ」と密かに問うたこの言葉によって、250年にわたる潜伏の時代から日本の教会が復活した出来事です。同時にこの出来事が端緒になって、日本のキリスト教禁止という前近代的政策は、欧米を巻き込む国際問題となり、遂に明治政府は「キリシタン禁令」の高札を撤去して「信仰の自由」を認め、日本は近代国家として前進することになったのです。「信仰の自由」を得た日本の教会も近代日本カト

リック教会として新しい歩みを始めました。今から遡ること88年、「信徒発見」から62年を経た1927年10月30日、ローマの聖ペトロ大聖堂で一人の日本人が司教に叙階されました。創立者早坂久之助司教です。ザビエルが日本にキリスト教を伝えて以来、待ち望んでいた初の日本人司教の誕生で、日本の教会史に特記さるべき慶事でした。早坂司教は、初の邦人長崎教区長に任命され、1928年4月、長崎に着任しました。司教は16世紀のキリシタン時代から250年に及ぶ禁教と殉教、潜伏の時代を経て保ってきた長崎のカトリック信仰とキリシタン文化の精神的遺産を、未来に継承するのが自分の使命であると考えました。長崎県内の各地には、すでに信徒たちの手によって美しい煉瓦造りの教会が建てられ、熱心な信仰生活が営まれていました。しかし、早坂司教は足りないものが一つあると考えました。それは長崎に女子の教育を行うカトリック学校が無いことでした。日本の歴史を変えることになった「信徒発見」は、浦上農民の主婦たちによっ

て実現しました。女性が担う役割はますます大きくなるだろう、早坂司教は長崎に女子のカトリック学校を設立することを決意します。学校設立には必要な人材を得ることが先決でした。その時、あたかも神が準備しておられたかのように司教の招きに応えたのが、東北帝国大学在学中に洗礼を受け、京都府立第一高等女学校の現職にあって修道会入会の道を探っていた江角ヤスと、東京女子高等師範学校出身で仙台高等女学校で教鞭をとっていた熱心なカトリック信徒大泉かつみの二人でした。早坂司教は教育に生涯を捧げ、これを継承する教育女子修道会が先ず必要であると考え、1934年「信徒発見のサンタ・マリアのご像」の前で純心聖母会を創立しました。そして翌1935年、この修道会を設立母体として純心女子学園が創立されたのです。創立者早坂司教と、初代校長に任じられたシスター江角ヤスは、聖母マリアを教育の理想に仰ぎ、「信徒発見」を実現した女性たちのように、賢明で自立した女性を育成しよう、純心教育に大きな夢を掛けま

第一の創業の時代

幼稚園

- 1935年（昭和10年）
純心女学院 創立
- 1936年（昭和11年）
純心女学院改め長崎純心高等女学校 開設
- 1937年（昭和12年）
純心幼稚園 開設
- 1940年（昭和15年）
純心保母養成所 開設

第二の創業の時代

中学

- 1945年（昭和20年）
8月 原爆により校舎全焼214名の学徒殉難
10月 大村市で授業再開(1949年家野町に復帰)

高校

- 1947年（昭和22年）
【中学】新制純心中学校 開設
純心女子専門学校（神学科・被服科）開設

短大

- 1948年（昭和23年）
【高校】新制純心女子高等学校 開設
- 1950年（昭和25年）
【短大】純心女子短期大学開学
社会科 開設（純心女子専門学校を母体とする）

- 1951年（昭和26年）
学校法人純心女子学園認可
【短大】保育科 開設（純心保母養成所を母体とする）
【幼稚園】聖心幼稚園 開設

- 1967年（昭和42年）
【幼稚園】西彼純心幼稚園 開設

- 1975年（昭和50年）
【短大】三ツ山町に移転

- 1983年（昭和58年）
【短大】英米文化科 開設

- 1989年（平成元年）
【短大】社会科に人文社会専攻及び社会福祉専攻 設置

- 1990年（平成2年）
【短大】専攻科（人文社会専攻、英米文化専攻）設置

- 1992年（平成4年）
【短大】専攻科（保育専攻）設置

大学

- 1994年（平成6年）
【大学】長崎純心大学開学
人文学部 比較文化学科・現代福祉学科 開設

- 1995年（平成7年）
【短大】社会科を社会福祉科に名称変更

大学院

- 1998年（平成10年）
【大学院】人間文化研究科人間文化専攻修士課程 開設

- 2000年（平成12年）
【大学】人文学部 人間心理学科 開設
【大学院】人間文化研究科人間文化専攻博士後期課程 開設

- 2001年（平成13年）
【大学】人文学部 英語情報学科 開設

- 2003年（平成15年）
【大学】人文学部 児童保育学科 開設

- 2007年（平成19年）
【保育園】純心保育園 開設

- 2008年（平成20年）
【幼稚園・保育園】純心幼稚園・純心保育園が
認定こども園に認定

第三の創業の時代

- 2015年（平成27年）
学園創立80周年
【幼稚園・保育園】幼保連携型認定こども園長崎純心
大学附属純心幼稚園に移行



初代学園長
シスター 江角 ヤス



創立者
早坂 久之助 司教

II・第二の創業の時代と「被爆70年」

した。
創立10年目に遭遇した原爆被災は、校舎のすべてを灰塵に帰し、動員中の「純女学徒隊」214名の生徒・教職員の命を奪ってしまいました。あまりの悲しみに学校を閉じようとした時、「娘たちは、祈りながら清らかな最期を遂げた。これは純心教育のおかげである。

学校を閉じないで欲しい」と願った遺族の言葉は、「10年間の純心教育」の確信となり、江角校長に再建の勇気を蘇らせ、「被爆70年」の歴史が始まりました。第二の創業の時代です。授業を再開した大村から4年後には長崎に復帰、戦後の学制改革の中、新しい時代の教育ができるように、学校の組織、校地・校舎を整備しながら今日に至りました。今、純心は幼稚園・中学・高校・大学・大学院の教育

III・創立80周年と第三の創業の時代の始まり

組織が整い、創立者が願った長崎に、引いては世界に貢献する教育研究の使命を担っています。
原爆被災の年から35年目の1980年、シスター江角初代学園長が82歳の生涯を閉じました。それから更に35年を経た被爆70年までに、被爆を体験し、シスター江角と共に再建を担ったシ

スターの多くが故人となりました。第二の創業の時代が終わり、第三の創業の時代が次の世代が引き継がれたのです。
今、世界は例えようもない変動と不安の時代を迎えています。しかし、このような時代であるからこそ、教育は人類の希望であり光です。純心に託された教育と研究の使命に、熱意をもって取り組む決意を新たにしたいと思っています。

創立80周年記念式典



2015年12月5日

12月5日(土)、長崎ブリックホールにて創立80周年記念式典が開催されました。会場には、県選出の国会議員、各界からの多くのご来賓や学園関係者の皆様にご列席いただき、学園の教職員、生徒及び学生も式典に参列しました。

式辞では片岡千鶴子理事長が、列席者とこれまで純心を支えてくださった方々への支援に対し感謝の意を述べるとともに、信徒発見150周年、被爆70年とい

う長崎の節目を刻む年に学園創立80年を迎える純心の歩みについて触れました。純心の歩みの第一歩である80年前の学園創立、原爆被災から立ち上がった第二の創業の時代、そして、今年創立80年をもって第三の創業の時代のはじまりととらえ、熱意をもって純心の教育研究の使命に取り組む決意を述べました。

来賓祝辞では、カトリック長崎大司教区高見三明大司教が創立者早坂司教について触れ、早坂司教の紋章のモチーフが願うように教育事業で世を常に照らし続けて欲しいと述べられました。富岡勉文部科学副大臣兼内閣府副大臣は、学園がこの先90年、100年と目指すことを祈念くださいました。濱本副知事は中村法道長崎県知事の祝辞を代読され、純心の人材育成に敬意を表すると共に今後の青少年育成への期待を述べられました。田上富久長崎市長は、初代学園長江角ヤスが語った「純心マッチ」を取りあげられ、未来に向けて平和の「純心マッチ」の火が受継がれていくことを願っていると話しいただきました。

シスター江角ヤスのメッセージ

祈り 江角先生は「祈り」の人でした。

- ・お祈りをたくさんしてちょうだいね。それは、神様とお話しできる、たった一つの方法です。
- ・私たちが子孫に残してあげたい遺産は、お金ではなく「心がけ」です。「アヴェ・マリア」の祈りを覚えましょう。あなた方はいつか、それを幸福と思うでしょう。

お辞儀 「お辞儀は人を大切にすることを一番やさしい実行です」

- ・お辞儀をするのにたった1分もかかりません。ましてお金もかかりません。けれど丁寧な、いいお辞儀をされるとみんな心が温まります。嬉しくなります。
- ・お辞儀をするときは、相手が幸せでありますようにと、心をこめてごらんください。必ず同じ心で返されるのです。

感謝 「感謝の心は、人間の一番よい心の状態です」

- ・苦しみのない人生はからっぽです。あとから思い返したら、苦しみはすべて善に変わっているのよ。だからどんなことも感謝に変えて生きましょう。
- ・神様にも人にも喜んでいただくためにはどのようにしたらいいのでしょうか。それは、聖母のようにあらゆるものを感謝の心で受け止めることです。

愛のわざ 「神様が一番お喜びになるのは『愛の実行』です」

- ・あなたは小さいけれども胸の奥に清い愛の火を宿しています。その愛の火を、社会や家庭に灯し、純心マッチになってください。
- ・「人を自分のように愛しなさい。それが一番大きな掟です。」と言われたイエス様の教えの実行が、学園の「いやなことは私がよろこんで」という標語になるのです。犠牲のないところに愛はありません。自分を人に与えるのが愛なのです。



江角ヤスのメッセージ朗読

今回の式典では、初代学園長シスター江角ヤスが残した多くの言葉からメッセージとして「祈り」「お辞儀」「感謝」「愛のわざ」について高校生と大学生が朗読を行いました。

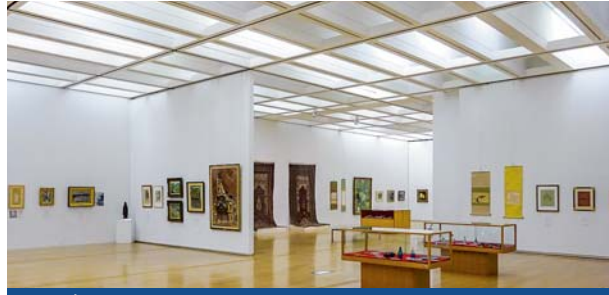
第二部、記念賛歌では、信徒発見150年を記念して石川和子作詞・作曲「まことの教え」、被爆70年を祈念して永井隆作詞・山田耕柞作曲「燔祭のうた」、無原罪の聖母を称える「Totus pulchra es Maria」を中高大・同窓会のコーラス部が合唱して閉会しました。



記念賛歌の合唱

創立80周年記念展

純心ゆかりの作家
長崎ゆかりの作家



2015年12月1日～13日

12月1日（火）から13日間にわたり、長崎県美術館県民ギャラリーにおいて、創立80周年記念展「純心ゆかりの作家 長崎ゆかりの作家」が開催されました。

今回の展示では、本学博物館が所蔵する絵画コレクションの中から、純心にゆかりの深い画家（小島善太郎・金山平三・舟越保武・望月春江・石本秀雄他）の作品や、長崎ゆかりの画家（高島秋帆・木下逸雲・荒木十畝・野口彌太郎他）の

作品及び工芸品等、本学博物館が所蔵する清島コレクション（十八銀行元頭取清島省三氏・和枝夫人が収集した美術品）の中から40点が初公開されました。また卒業後も芸術活動を行ってゐる卒業生の作品や日頃の教育研究活動成果として学園教員の県展及び日展の入賞作品、園児、生徒、学生の作品も展示されました。

学園関係者（教職員、園児生徒及び学生）の作品展示はこれまでにも行ったことがありましたが、本学博物館の所蔵品については、今回のような規模で学外において公開するのは初めての試みでした。



オープニングセレモニーでのテープカット

12月1日のオープニングセレモニーでは、記念展の

共催である長崎新聞社の徳永英彦常務取締役販売局長をはじめ、長崎県美術館米田耕司館長、本学博物館越中哲也顧問、本学園理事長及び本学学長によるテープカットが行われました。また、純心中学校の生徒による歌が披露され、その澄み切った歌声で記念展のオープニングが一層華々しいものとなりました。



ギャラリー内の様子

展示期間中の来場者数は約2500名、長崎県内は元より遠くは関東からご来場を賜りました。

記念展は終了しましたが、本学博物館（長崎市三ツ山町）では常設及び企画展示を行っております。是非一度足をお運びください。

感謝ミサ



2015年12月8日

毎年創立記念日（12月8日）には創立記念ミサが浦上天主堂で行われ在学生や教職員が参加します。今年は80周年の記念すべき年であることから保護者・卒業生にもご案内して感謝ミサを捧げました。

司式は、本学園の理事でもあるカトリック長崎大司教区高見三明大司教に務めていただきました。

式中の説教を担当された古巢馨神父（本学教授）は、初代校長江角ヤスの三つの出会いについて触れられ、仙台市内の教会にある二十六聖人のステンドグラスを

通しての「殉教者との出会い」、純心女学院（のちの純心女子学園）の設立母体となった純心聖母会が大浦天主堂から始まった「信徒発見との出会い」、原爆で亡くなった生徒の美しい最後について生徒の親から御礼をされ自分の教育方針が間違っていないかという思いが復興の力となった「復活との出会い」について話されました。

「小さな存在でも周りを明るくできるマッチになりなさい。」「頼まれたことはできない、ではなくやってみましょう。」江角ヤスが残した言葉の数々が生徒たちの中に癒しとなって残っており、創立80年の日に江角ヤスが生きた癒しの年が始まること。江角ヤスの想いと純心女子学園の体験は意味を持つものであること。そして癒されて癒す人になるためにと話を結ばれました。

式が終わろうとしたその時、浦上天主堂の鐘の音が響きわたたり、学園創立80年の節目の意味、これまでそしてこれからの学園の歩みを考えさせられる意味深い感謝ミサとなりました。（メディアオフィス室長 山口弥生）